

**製品名: CEBP アルファ (10Y5) ウサギモノクローナル抗体****カタログ番号: AMRe08623**

研究使用のみ

**概要**

説明	組換えウサギモノクローナル抗体
宿主	うさぎ
応用	WB
反応性	ヒト、マウス、ラット
標識	非共役
修飾	未修正
アイソタイプ	IgG
クローン性	モノクローナル
形態	液体
濃度	0.5mg/ml。本製品の濃度はロットによって異なる場合があります。
保存	アリコートし、-20°Cで保存してください（12ヶ月有効）。凍結/融解サイクルを避けてください。
輸送	氷袋
バッファー	ウサギ IgG（リン酸緩衝生理食塩水、pH 7.4、150mM NaCl、0.02% 新型保存料 N、50% グリセロール含有）。短期保存は+4°C、長期保存は-20°Cで保存してください。凍結融解サイクルは避けてください。
精製	アフィニティー精製

**応用**

希釈倍率	WB 1:500-1:2000
分子量	38kDa

**抗原情報**

遺伝子名	CEBPA
別名	C/EBP alpha; CCAAT/enhancer binding protein alpha; CEBPA;
遺伝子 ID	1050.0
SwissProt ID	P49715
免疫原	ヒト CEBP アルファの合成ペプチド

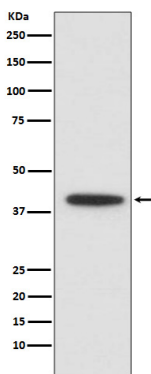
**背景**

このイントロンレス遺伝子によってコードされるタンパク質は bZIP 型転写因子であり、特定のプロモーターおよびエンハンサーにホモ二量体として結合することができます。また、関連タンパク質である CEBP-beta および CEBP-gamma とヘテロ二量体を形成することもできます。コードされているタンパク質はプロモーターに結合し、体重の恒常性維持に重要な役割を果たすタンパク質であるレプチンをコードする遺伝子の発現を調節することが示されています。骨髄系前駆細胞、脂肪細胞、肝細胞、肺細胞および胎盤細胞の増殖停止と分化を調整する転写因子です。コンセンサス DNA 配列 5'-T[TG]NNGNAA[TG]-3' に直接結合し、異なる標的遺伝子の活性化因子として作用します (PubMed:11242107)。初期胚発生において、CEBPB と必須かつ重複した機能を果たします。共通骨髄前駆細胞 (CMP) から顆粒球 / 単球前駆細胞 (GMP) への移行に必須。肝臓および肺の適切な発達に重要 (類似性による)。終末脂肪細胞分化に必要であり、出生後の全身エネルギー恒常性と脂質貯蔵の維持に必要 (類似性による)。これらの様々なプロセスを適切な時期および組織で制御するために、他の転写因子およびモジュレーターと相互作用する。E2F1 抑制を介して、細胞を未分化および増殖状態に維持する遺伝子の発現をダウンレギュレーションする。これは、脂肪細胞および顆粒球の終末分化を誘導する能力にとって重要である。逆に、E2F1 は特定のプロモーターに結合し、標的遺伝子プロモーターへの CEBPA の結合を抑制することで、脂肪細胞分化を阻害する。増殖停止は、SWI/SNF 複合体 (PubMed:14660596) への機能的結合にも依存する。肝臓では、異なるメカニズムを介して糖新生および脂肪生成を制御する。糖新生を制御するために、FOXO1 と機能的に連携し、IRE 制御プロモーターに結合して PCK1 や G6PC1 などの標的遺伝子の発現を制御します。脂肪生成を制御するために、SREBF1 と相互作用し、ACAS2 などの特定の脂肪生成標的遺伝子のプロモーター活性化において転写的に相乗作用を示します。脂肪組織では、FOXO1 結合部位を介して ADIPOQ プロモーターにアクセスし、FOXO1 コアクチベーターとして機能すると考えられます (類似性に基づく)。

## 研究分野

がんの経路;急性骨髄性白血病;

## 画像データ



U937 細胞溶解物中の CEBP アルファ発現のウェスタン プロット分析。